

令和7年度 事業報告

社会福祉法人 ウエルネス

令和7年度を迎えるにあたり、私たちは「安心・尊厳・つながり」を大切にしながら、より質の高い介護サービスの提供を目指しました。

1, 利用者一人一人の意思を尊重し、自立支援を尊重するケアを目指します。心のこもったサービスを通じて、利用者が笑顔で過ごせる環境を整えます。2, 介護職員がやりがいを感じ、安心して働ける環境を整備します。研修の充実やチームワークの強化を通じて、職員のスキルアップと働き甲斐の向上を目指します。3, 地域包括ケアの推進に向けて、医療機関や自治体、家族との連携を深めます。地域の支え合いの仕組みを強化し、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。4, 安定した介護サービスを提供し続けるためにICT等を活用し、運営の効率化や新たな取り組みを模索し、持続可能な運営を目指します。今期から、見附市よりの委託事業で「放課後児童健全育成事業」を受諾し、地域の子育て環境の整備にも寄与しました。

1、地域への貢献

今年度の地域活動は、地域コミュニティや町内会等との連携を図りながら、地域密着の活動を実施しました。

「うんどう教室」	毎月第4水曜日 毎月開催実施
「オレンジカフェ」	第1月曜日毎月開催（本所、柳橋で隔月開催。他出張で8回実施）
「くずまきフェスタ」	10月18日に開催実施
「チームオレンジの輪」	第3水曜日毎月実施。まちなか西コミュニティとの協働
「認知症行方不明者搜索模擬訓練」	9月27日葛巻地区で実施
「通所運営推進会議」	規定に則り、10月10日開催、3月24日開催予定。
「特養運営推進会議」	規定に則り、5, 7, 9, 11, 1, 3月開催。

2、健全経営と職員の処遇改善

令和6年度に設定された介護報酬改定の、全体として1.5%の増額（介護報酬0.6%、介護職員等処遇改善加算0.9%増額）をベースに事業を展開しました。介護事業者の売り上げは、この介護報酬にすべてをゆだねているという状況の中で、政府が推奨する5%の賃金改正の原資を、これからの3年間でこの枠組みの中でねん出するには経営努力を超えた領域と言えます。また、介護人財不足も、年々激化してきており、採用へのコストも上昇の一途をたどります。今後は、外国人の採用をある程度の割合で組みこんでいく必要があります。今期は7月にネパール人2名の採用しました。その環境の中で、目指すところは稼働率の向上と機会ロスの削減です。

処遇改善については、基本の処遇改善加算のほかに、「令和6年度介護保険事業費補助金（物価高対策）902,769円。令和7年度介護保険事業補助金（賃上げ）2,704,931円の追加処遇があり、期末までに支給しました。

また、特養の開設9年目を迎え、令和8年度より空調機器の仕様変更に備え、「原材料高騰対応設備導入型緊急支援事業補助金」に申請し、1,333,000円の交付が決定したので、それを利用して個室28部屋分のエアコンを新規入れ替えすることができました。

3. 各事業の事業報告

① 特養：

A、「施設運営と感染症対応」

今年度は、感染症対策を継続して徹底した結果、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の施設内感染は発生せず、安定した施設運営を行うことができました。稼働率については、2月末時点で、年間平均を96.5%。9月に100%も達成し、一定の入居率を確保することができました。

また、インターネット研修システムを活用した施設内研修を月1回実施するとともに、ふるまいとの合同によるリーダー研修を月1回実施し、サービスの向上および管理者育成にも取り組みました。

B、「地域との交流」

面会制限の緩和を勧め、居室内での面会や外出の機会を増やせるよう取り組みました。これにより、入居者の生活意識が向上に加え、ご家族および職員との関係性の向上にもつながったものと考えています。また、ボランティアの受け入れ、紙芝居や歌のコンサート、保育園児との交流、ふるまいとの合同秋祭りなどを実施し、入居者に楽しんでいただける機会の創出に努めました。

今後も地域密着型施設として、入居者、ご家族、地域の方、職員が良好な関係を築けるよう、取り組んでまいります。

② 通所介護：年間稼働率は69.5%の見込みとなりました。長年利用されていた方の卒業等により、のし明け以降の稼働率低下がみられました。

A、主な取り組み

○自宅での日常生活との連携を強化した介護計画のもと、一体的なリハビリテーションと科学的介護に取り組みました。

○「そいがあ亭だより」を毎月発行し、活動内容や情報発信に努めました。

○公共施設（ネーブルみつけ、みちの駅）や、屋外運動（イングリッシュガーデン、しらさぎ森林公園）への外出を通じ、地域とのつながりを深めることができました。

○職員間の信頼関係を築き、発言しやすい職場環境づくりを行いました。

○「できるところを伸ばし、やりたいことを実現する」をモットーに、ご利用者様

と利用目的を共有し、自己実現に向けて職員が一丸となり支援を行いました。

③ 地域包括支援センター

年々相談件数が増加していると主に、相談内容も複雑化しています。介護予防支援の直営件数を維持しつつ、各種相談に対し迅速な対応も引き続き行ってきました。

○新規で介護申請する相談も増えています。居宅支援事業所の空きが続いており、どの事業所からも「新規が欲しい」との声が多く、順番に新規を依頼しています。

○オレンジカフェは、地域外から参加する方が増え、減少傾向だった参加者数は維持できています。昨年度は、出張オレンジカフェが4回と少なかったため、今年度は自分たちからも、積極的に老人会やサークル等に声をかけ、出張開催を8回行いました。

○まちなか西コミュニティとのチームオレンジについて、定期的な集いの場や勉強会を継続して行いました。地域内の保育園や高齢者の集う場所、コミュニティ行事等での周知活動も昨年同様行いました。

○葛巻地区で9月27日に、行方不明者搜索模擬訓練を行いました。葛巻地区コミュニティとのつながりをさらに深めることができ、参加された地域の方々の積極性や意識の高さを感じ、今後もコミュニティと共同した取り組みを継続していきたいと思っています。

④ 見附市児童健全育成事業 「あかり学童クラブ」

行政の補助金交付解釈が期の途中で変わり、予算の変更もありましたが、打ち合わせを密にすることにより、減額を最小に抑えることができました。

○普段利用 1年5名、2年7名、3年9名 計21名。長期のみ利用1年2名、2年7名、3年1名 計10名 合計31名の利用者に構成しました。

○それを指導する指導員は、管理者1名、指導員10名で対応しました。開設以来の指導者も多く、経験も積み、安定した指導・見守りができています。

○小学校でも、色々な感染症が流行しましたが、学校側からのお知らせ、各家庭からの事前連絡等を密に行い、施設内感染者は出ませんでした。